

「コウノトリ育むお米」の輸出好調

コウノトリ野生復帰の推進で重要となる「コウノトリ育むお米」の輸出が好調である。

2013年に“和食”がユネスコ無形文化遺産に登録され、近年海外では、日本食レストランが増加するなど、日本食が世界で認められている。本市では、“ローカル&グローバル・シティ”を実現するための主要施策の一つとして、海外市場の開拓に取り組んでいる。

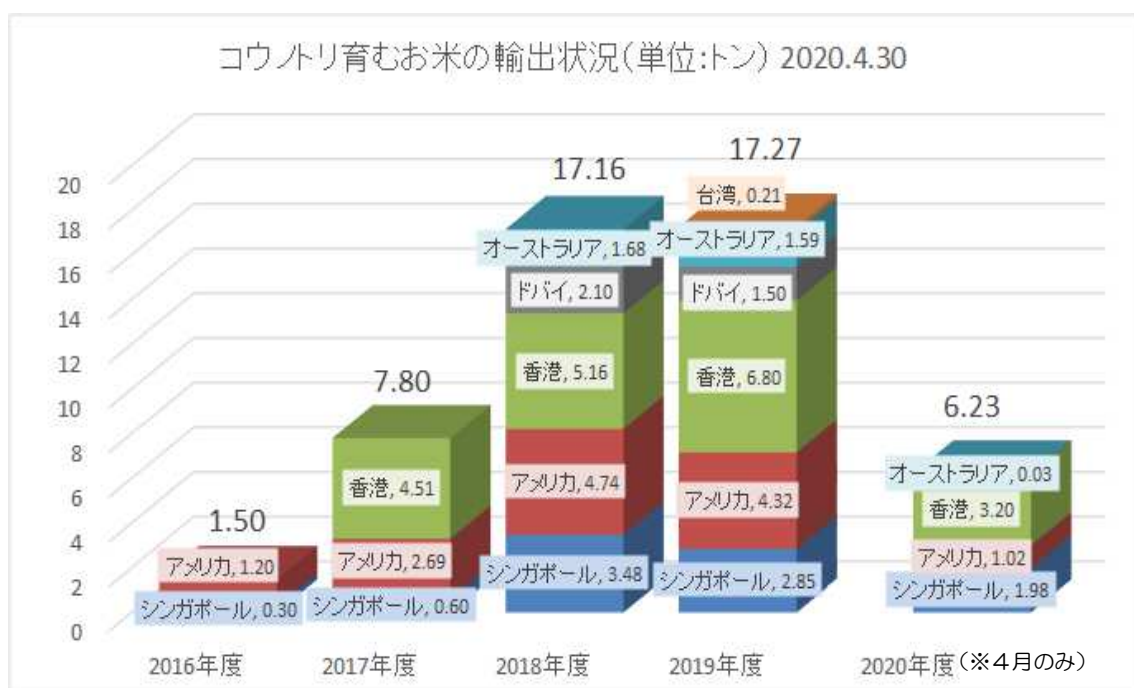
1 年度別の輸出状況（2020年4月30日現在）

現在の輸出先は6つの国と地域。輸用量は年々増加。高級スーパーや日本食材店で小売りされているほか、高級日本食レストランで使用されている。2020年度は4月のみで前年度の約36%を輸出した。

《国(地域)別の輸用量》

(単位:トン)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度 (※4月のみ)
シンガポール	0.30	0.60	3.48	2.85	1.98
アメリカ	1.20	2.69	4.74	4.32	1.02
香港		4.51	5.16	6.80	3.20
ドバイ酋長国			2.10	1.50	
オーストラリア			1.68	1.59	0.03
台湾				0.21	
計	1.50	7.80	17.16	17.27	6.23



2 直近（2020年1～4月）の輸出状況

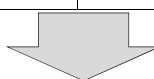
(1) 2019年との比較

2020年1月から4月までの輸出量は12.37トン。前年同期比101%増となった。

《2019年の輸出量》

(単位:トン)

	シンガポール	アメリカ	香港	ドバイ	オーストラリア	台湾	計
1月	0.24	0.60	0.56	0.60	0.06		2.06
2月		0.90	0.36		0.72		1.98
3月		0.21	0.71	0.30			1.22
4月		0.15	0.22		0.51		0.88
計	0.24	1.86	1.85	0.90	1.29	0	6.14

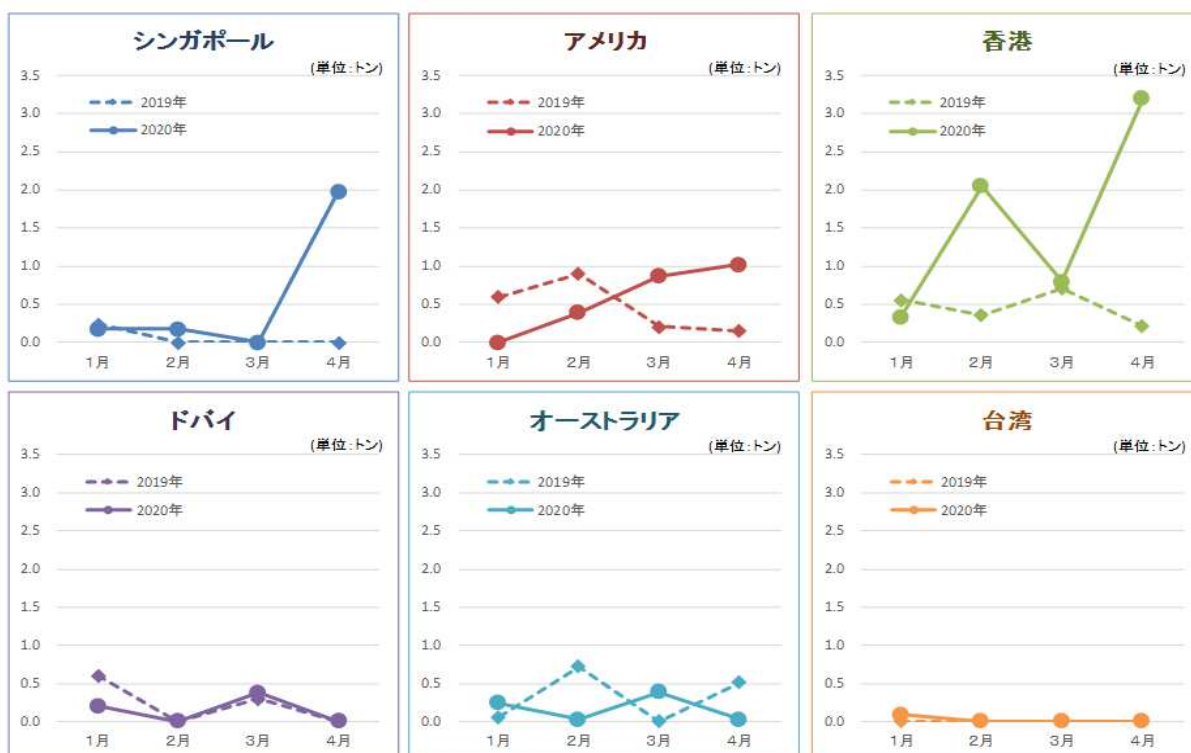


《2020年の輸出量》

(単位:トン)

	シンガポール	アメリカ	香港	ドバイ	オーストラリア	台湾	計
1月	0.18		0.34	0.20	0.24	0.09	1.05
2月	0.18	0.39	2.05		0.03		2.65
3月		0.87	0.80	0.38	0.39		2.44
4月	1.98	1.02	3.20		0.03		6.23
計	2.34	2.28	6.39	0.58	0.69	0.09	12.37

2019/2020年の国(地域)別・月別推移グラフ





(2) 需要傾向(考察)

ア シンガポール【前年同期比 875%の増】

(ア) 世界中で外出規制が始まり、日系量販店「MEIDIYA(明治屋)」で買い込み需要が強まった。

(イ) 2020年3月から、高級和食店「Ki-sho 葵匠」で使用開始。同国内で初の飲食店での使用である。

イ アメリカ【前年同期比 23%の増】

(ア) 新型コロナウイルス感染症の拡大により、巣ごもり消費に対応して、インターネットによる販売が伸長した。

(イ) 2020年3月から、ニューヨークの日系米穀店「the rice factory」でコウノトリ育むお米(JAS)の販売を開始(インターネット販売)。特に、安全安心なお米が欲しいというニーズが高まった。

(ウ) 2020年4月からは、ハワイの日系米穀店「the rice factory」で、コウノトリ育むお米(無農薬)の対面販売を再開した。

ウ 香港【前年同期比 245%の増】

外出規制中の巣ごもり消費が影響し、香港量販大手の「PARKnSHOP(パークンショップ)」で販売が伸長した。

エ ドバイ首長国【前年同期比△36%の減】

高級リゾートホテル「フォーシーズンズ ドバイ」内のレストランでの定番使用と、高級和食店のイベントでの使用である。

オ オーストラリア【前年同期比△47%の減】

世界中で外出規制が始まり、3月に買い込み需要が強まった。一方、飲食店での使用が減少した。

カ 台湾【2019年10月から販売開始】

現地の日系小売店・2店舗(全農直営店「じゃじゃ^{ゆうもうや}」、裕毛屋)で販売を開始した。目立った買い込み需要はない。